

■日蓮(立正大師)

にちれん

・ ・ ・ ・ ・ 1222=

日蓮宗の開祖。幕府に「立正安国論」提示、受難の生涯の中、現代なお伸張する法華信仰を確立。

安房国(千葉県)長狭郡に漁夫の子に生まれた。

北条政子没・1225= 3歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1231= 9歳 :

御成敗式目・1232=10歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1233=11歳 : 清澄山(天台寺院清澄寺)に上り、道善房の弟子となる。

・ ・ ・ ・ ・ 1237=15歳 : 道善房を師として出家し、是聖房蓮長となる。

・ ・ ・ ・ ・ 1239=17歳 : 鎌倉に遊学、浄土宗・禅宗を学ぶ。

・ ・ ・ ・ ・ 1240=18歳 :

北条泰時没・1242=20歳 : 清澄山に帰り、「戒体即身成仏義」を著わす。比叡山に登り、南勝房俊範に師事する。

北条時頼執権1246=24歳 :

引付衆設置・1249=27歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1251=29歳 : この頃しきりに諸寺諸山を訪う。

日蓮宗始・1253=31歳 : *比叡山を下り清澄寺に帰山し、はじめて「南無妙法蓮華經」と唱え、日蓮と名のる。同寺で法華信仰の弘通を開始するが、法華仏教至上の立場から浄土教を批判したため、浄土教徒に圧迫され同寺を退出、弘通の場を鎌倉に求めた。

宋船制限・1254=32歳 : 鎌倉布教を始める。

北条時頼出家1256=34歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1258=36歳 :

1260=38歳 : *「立正安国論」をまとめ、前執権で北条氏得宗の北条時頼に提示した。同書には、このまま放置すれば經典が指摘する自界叛逆難(内乱)と他国侵逼難(侵略)が起こるだろうと記され、のちに後者が蒙古襲来の予言として受けとめられた。同書の趣旨は採択されず、かえって浄土教徒に襲撃され、

・ ・ ・ ・ ・ 1261=39歳 : 鎌倉幕府により伊豆伊東に流謫される。

北条時頼没・1263=41歳 : 赦免。

・ ・ ・ ・ ・ 1264=42歳 : 一時期安房に帰る(老母の看病をし、病を治す)が、再び当地の浄土教徒に襲撃され鎌倉に戻る。

・ ・ ・ ・ ・ 1267=45歳 :

北条時宗執権1268=46歳 : 元の国書が届けられ、蒙古襲来の不安が高まるなかで、時宗以下諸大寺に対して「11通御書」と呼ばれる激文を送り、諸宗の大徳に公場対決を迫る。これを予言したとして日蓮の言動を見直す空気もでてきたが、日蓮は死罪・流罪に処せられることを覚悟して、いままで以上にラディカルに法華信仰を弘通しようと決意し、実行。この頃から、法華經至上から法華經一の立場に進む。信奉者も増え、
日蓮佐渡配流1271=49歳 : 浄土教の良忠、念空と律宗の忍性らの訴えで、幕府から弾圧され、斬首の危難にさらされたあと佐渡へ流謫され、転向者が続出、壊滅状態におちいる。流人生活のなかで、その教義を樹立して行く。

二月騒動・1272=50歳 : 「開目抄」はじめ、

・ ・ ・ ・ ・ 1273=51歳 : *代表作「観心本尊抄」「諸法実相抄」などを著し、迫害弾圧を受けることでかえって自己の罪障が消滅するという折伏・受難・滅罪の弁証を示し、釈尊や「法華經」の功徳を凝集する「法華經」の題目を唱えること(唱題)によって、その功徳がおのずから即座に譲与されるとして唱題の意味づけを行う。

元寇文永の役1274=52歳 : 赦されて鎌倉で得宗被官の代表者平頼綱と会見し、蒙古襲来の時期と対策について話し合うが、また採択されず、挫折感を抱いて流浪の旅に出、甲斐国身延に一時期のつもりで滞在し、

元使斬殺・1275=53歳 : 「撰時抄」「種種御振舞御書」、

・ ・ ・ ・ ・ 1276=54歳 : 「報恩抄」、

宋滅亡・1277=55歳 : 「下山御消息」「頼基陳状」等の長文の陳状などを著す。蒙古が襲来したこと、しだいに門弟の往還が盛んになったこと、弟子育成のことに加え、

元寇弘安の役1281=59歳 : 病も重くなって、

日蓮没・1282=60歳 : 結局、身延に在住したまま、没した。